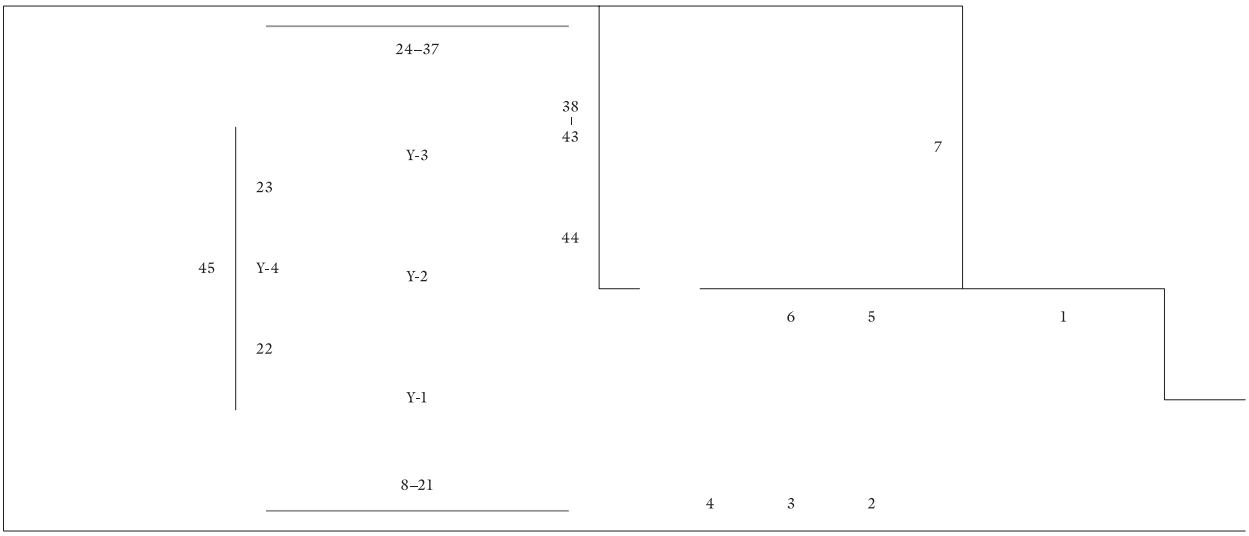
会場マップ
Floor Map



シリーズ解説

〈無題〉

滋賀での仕事のかたわら、川内が撮りためていた映像を編集、構成した作品。今回が初めての展示となる。川内のとらえた、西の湖のヨシ焼き、八幡祭りの篝火、菜の花畑、湖面など、滋賀の美しい風景が流れていく。音楽は田辺玄と森ゆにが担当している。

〈無題〉 滋賀県美リニューアルオープンイメージ

滋賀県立美術館は2021年6月のリニューアルオープンのポスターイメージの撮影を川内に依頼し、県内各所で撮影を行った。ポスターに使われているのは、米原市醒井の梅花藻（バイカモ）である。今回は展示に合わせて、その時撮り下ろされた写真に加え、滋賀で撮影された写真を追加して再構成している。

〈Cui Cui〉

2005年に発表された、川内が13年にわたって家族を撮影した作品。祖父母が滋賀在住だったため、滋賀の風景が数多く登場する。ふとした食卓の風景や、盆や正月の集まり、祖父の死と新たな命の誕生。誰もが記憶している、ありふれたごく普通の家族の日常もまた、生と死のサイクルと共にあることを思い起こさせる。

〈やまなみ〉

滋賀県甲賀市にある障がい者多機能型事業所「やまなみ工房」を約3年にわたって撮影したシリーズである。やまなみ工房では、障がいを持った人による創作活動に力を入れており、メンバーの中にはアール・ブリュットの作家として国内外で高い評価を受ける人も少なくない。川内は、やまなみ工房ですごす利用者の人々の姿に触れ、その在り方に、自然に相対する時と同様の畏敬を感じながら撮影を行ったという。

やまなみ工房作品

井村ももか《ボタンの玉》 Y-1

井村の作品は、好きな色の布の一面にボタンを縫い付けたものを球状に丸めて縫い止め、一回り大きな布にボタンを縫い留めてその球をくるみ、それを繰り返すことでできている。ふんわりと丸っこい形態の球の内側には、外からは見えないさまざまの色の布とさまざまなボタンが幾重にも重なっている。

鎌江一美《七夕の夜に空をみている私とまさとさん》 Y-3

鎌江の作品はまさとさんという男性をモデルに作られている。そのため、タイトルも《まさとさん》あるいは《〜をするまさとさん》というように付けられている。立体の表面が、時間をかけて米粒大の粒で丹念に覆われた作品は、まるで結晶化した彼女の想いそのもののようだ。

酒井美穂子《サッポロ一番しょうゆ味》 Y-2

酒井は朝起きて、夜眠るまで、ほとんどの時間を「サッポロ一番しょうゆ味」を見つめて過ごす。きっと今この時も、彼女は「サッポロ一番しょうゆ味」を見つめているだろう。展示されているのは川内がやまなみを撮影していた時期に、酒井が見つめていたものである。

山際正己《正己地蔵》 Y-4

山際の《正己地蔵》は、彼の日々のルーティンの中で作られており、同じ形の地蔵を流れ作業のように素早く量産していく行為を20年以上続けている。優しい表情で手を合わせる素朴な地蔵の姿は、誰かの誕生日を祝ってハッピーバースデーを歌う山際自身の姿であるかのように感じられる。

主催　滋賀県立美術館、朝日新聞社　　協力　やまなみ工房　　令和4年度日本博イノベーション型プロジェクト補助対象事業（独立行政法人日本芸術文化振興会／文化庁）
会場デザイン　中山英之建築設計事務所